

手を動かして計算しよう「置いてみよう、落としてみよう」

〈ねらい〉

- ・具体物を操作することで、数量感覚をもつことができるようにする。
- ・具体物を置いたり、落としたりすることで加法・減法の仕組みを視覚的に捉えることができるようにする。

〈材料〉

・A4サイズの下紙が貼れる箱や段ボール（お菓子の箱やコピー用紙の入っている段ボール等）

※箱の高さが高すぎると机上で操作がやりにくいため、箱はカットして低くする。

※切り込みを入れてボール等を押し込むので、ある程度、強度があるものがよい。

箱が弱ければ、箱の内側に補強の布テープを貼る。

・シート（10個 ver.・20個 ver.）

※実態に合わせて、丸の数は調整可能。



箱の高さは、
5～10cm程度



・落とすための玉（10個の場合はピンポン玉・10個以上であれば直径2.5cm程度のもの）

※素材は固いものや発砲スチロールなど実態に合わせて準備する。

※誤飲には、十分気を付ける。

〈 玉の例 〉



ピンポン玉



発砲スチロール



フェルト素材



ガラス素材

※10を超えるときは、加減法が分かりやすいように、玉やシート自体の丸の色を変えるなど工夫をする。

〈道具〉

・のり ・カッター ・定規

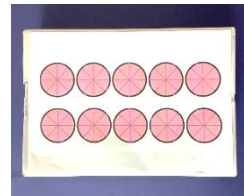
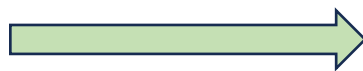
〈作り方〉

(1) シートを印刷し、箱に貼り付ける。

※ラミネートをかけると玉を落とした後の戻りが悪くなるので、ラミネートをせずに貼り付ける。



※切り込みを入れるため、
全体的にのりをつける。



(2) カッターで切り込みを入れる。

※シートの丸の数を増やしたり減らしたりすると、切り込みの位置が変わるため、シートごとにそれぞれ箱を用意する。

